

第1節 重点的に進める取り組み

重点的に進める取り組みの位置づけ

「重点的に進める取り組み」は、環境施策の中から優先的に着手し推進することが望ましい取り組みについて抽出し、先導的に実践していくことで、計画全体のスピード感を高めることを目的に設定します。

取り組みの抽出においては下記の視点に基づき、基本目標ごとに1つずつ設定しています。

表 4-1 重点的に進める取り組みの抽出の視点

✓ 特に優先度や緊急度が高いと考えられる取り組み
農地・森林保全や水質保全等の瑞浪市の環境課題、脱炭素化や再生可能エネルギー*等の社会的要請へ寄与する取り組み
✓ 発展的な取り組み
市民・事業者の関心を集め日常生活・事業活動への波及や、重点的に進める取り組みをきっかけとして進展が期待できる取り組み
✓ 各主体との協働による取り組み
市民・事業者を巻き込んだ、多くの主体の参加と連携により推進する取り組み
✓ 瑞浪市らしい取り組み
豊かな自然環境や瑞浪市の風土、歴史文化等、瑞浪市の魅力を引き出す取り組み

基本目標1

I 市民・事業者・観光客を巻き込んだ里山再生プロジェクト

基本目標2

II 「グリーンライフ21プロジェクト*」への参画

基本目標3

III 中山道の魅力発信プロジェクト

基本目標4

IV 再生可能エネルギー*の導入促進プロジェクト

基本目標5

V スーパーエコスクール*の取り組みの水平展開プロジェクト

図 4-2 重点的に進める取り組み一覧

I 市民・事業者・観光客を巻き込んだ里山再生プロジェクト

— プロジェクトのねらい —

本市は飛騨木曾川国定公園や竜吟峡等を保有し、市域の約7割に森林が広がっています。また、この豊かな自然環境を背景に、ネコギギやオオサンショウウオ等の絶滅危惧種に指定される希少生物が生息しています。さらに、これらの山並みや田園が作り出す里山の景観について多くの市民が愛着をもっています。しかし一方で、林業や農業への従事者は減少しており、森林整備の停滞、耕作放棄地の増加が懸念されます。

本プロジェクトは、健全な森林・農地の保全と積極的な活用を通じて、生態系の保全や本市の美しい景観の形成、二酸化炭素吸収源対策、さらに防災・減災等多面的機能の最大化を目指します。

— 取り組みの方向性 —

本市の農地・森林の保全に対して、市民・事業者・観光客の農林業体験を促進し、体験を通じて自主的かつ継続的に参加する仕組みを検討します。また、環境教育の場として、森林や農地で自然とのふれあいを促進し、生物多様性への理解と保全意識を高めるとともに、地域産業の実践の場としても活用し、愛着と誇りを養います。

将来的には、間伐等の森林管理を通じた二酸化炭素の吸収量をクレジット化し、そのクレジットを企業等へ売却することにより得た収益を利用して、さらなる森林整備・活用の促進へ繋げる取り組みを検討します。



Ⅱ 「グリーンライフ21プロジェクト*」への参画

— プロジェクトのねらい —

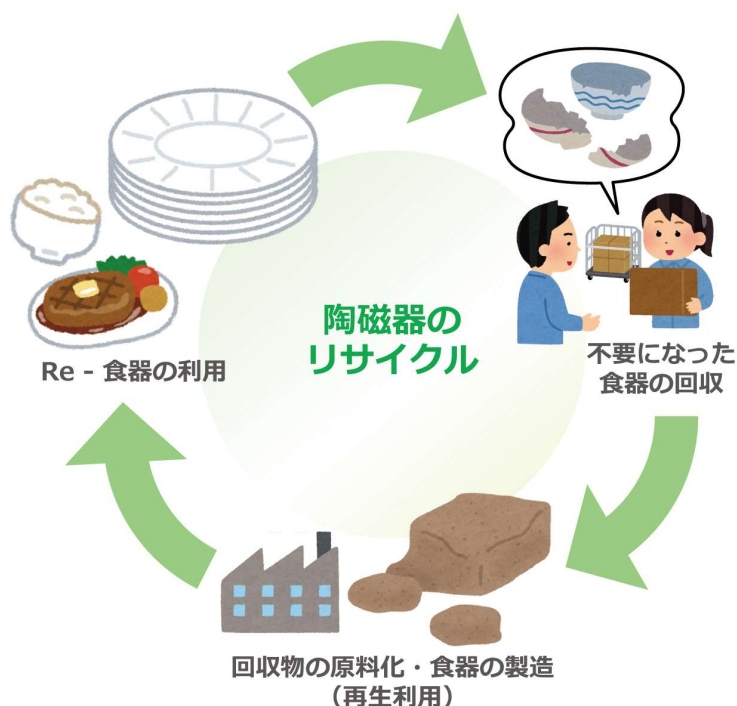
美濃地方は良質な陶土を有し、飛鳥時代から美濃焼を生産してきた歴史を持ち、本市においても、美濃焼の産地として陶磁器産業が発展してきました。さらに、現在は「みずなみ焼」ブランドの確立を進めています。一方で、原料枯渇や廃棄物処理量削減への対応が求められています。

本プロジェクトは、地場産業である陶磁器産業における資源循環及び脱炭素の取り組みを産地全体で推進し、陶磁器産業やその他の産業への波及を目指します。

— 取り組みの方向性 —

使用済みの陶磁器は、微粉砕することでリサイクル*陶土として再生利用することが可能です。リサイクル*陶土が使用された食器は「Re-食器」と呼ばれており、陶磁器産業界においてこのような陶磁器リサイクル*の取り組みが進められています。

家庭からの使用済み陶磁器の効率的な回収の仕組みを構築するとともに、イベントや市庁舎における「Re-食器」の展示及び利用を通じて、「Re-食器」の普及と理解浸透を促進し、リサイクル*意識と参加意欲の向上を図ります。また、配合率と品質の向上について研究し、「Re-食器」の普及拡大を促進します。



Ⅲ 中山道の魅力発信プロジェクト

— プロジェクトのねらい —

本市の北部丘陵を東西に中山道が通っています。街道沿いには大湫宿、細久手宿の宿場町のほか、一里塚、琵琶峠、十三峠、弁財天の池等多くの史跡や名所、歴史的な景観が残っています。

先人の努力によりこれまで美しい景観が保たれてきた宿場や史跡を、地域全体で守り続けていく取り組みが現在も行われています。しかし、大湫宿はかつての宿場でありながら、空き家が増加し現在は宿泊機能を失っていることや、飲食施設が少ないことが課題となっています。また、細久手宿は、空き家の増加や、宿場としてのまちなみが失われつつあります。

本プロジェクトでは、中山道の史跡の保全、景観の維持を地域・行政や事業者の協働により進めます。

— 取り組みの方向性 —

史跡・景観の保全を地域と行政の協働のもとに計画的に進めていきます。また、訪れた方が、宿場町に宿泊し、食事をして、様々な体験ができる場の提供、滞在期間中に回遊できるような仕組みづくり、地域の稼ぐ力の回復・強化に向けて、生活者と共生した一体的な整備を進めていきます。



IV 再生可能エネルギー*の導入促進プロジェクト

— プロジェクトのねらい —

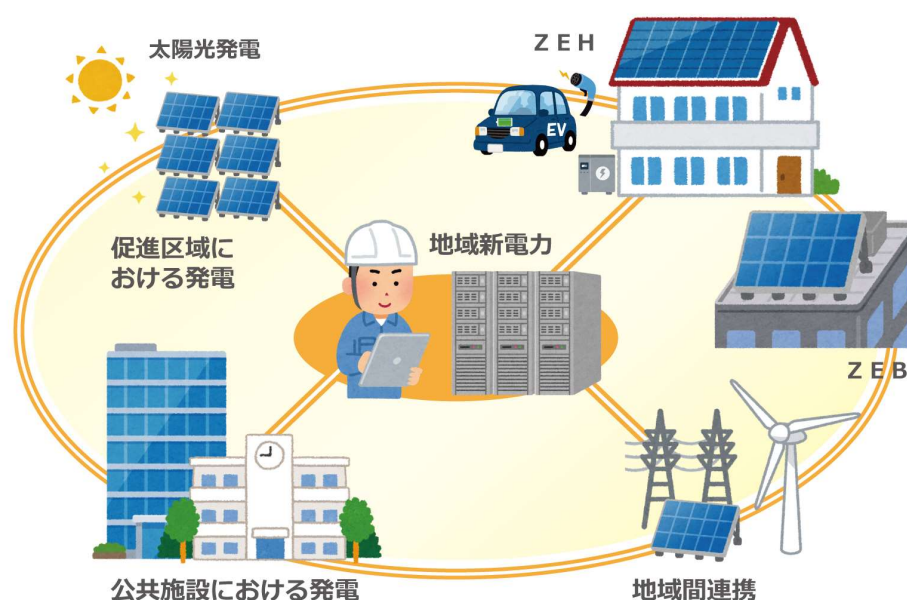
2050年における温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指す、「ゼロカーボンシティ*みずなみ宣言」を表明し、脱炭素化に向けた取り組み強化を図っています。ゼロカーボンシティ*の実現のためには、各主体による省エネルギー対策を推進するとともに、太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギー*の導入を両輪で進めることが必要不可欠です。現在、本市においては市内の消費電力の約3割に相当する再生可能エネルギー*を導入しており、さらなる導入が求められます。

本プロジェクトは、再生可能エネルギー*設備の導入を推進するとともに、市民・事業者が広く再生可能エネルギー*による電気・熱を使用できる環境を整備することで、エネルギーの地産地消を目指します。

— 取り組みの方向性 —

ZEH*・ZEB*の促進を通じて、家庭や事業所における太陽光発電設備の導入と活用を推進します。また、再生可能エネルギー*の発電設備等の導入と、地域の脱炭素化の取り組みを行う促進区域について設定することで、適正な環境配慮と合意形成を踏まえた、地域と共生し地域に貢献する再生可能エネルギー*の導入事業を促進します。

さらに、地域新電力*を設立し、市内で生産された再生可能エネルギー*電力を市内へ地域供給し、消費する仕組みを構築することによって、エネルギーの地産地消と地域経済の活性化、エネルギー自給率の向上を推進します。



V スーパーエコスクール*の取り組みの水平展開プロジェクト

— プロジェクトのねらい —

瑞浪北中学校は、全国で初めての「スーパーエコスクール*」として新築・開校しました。中学校には太陽光発電パネル、蓄電池、風力発電装置の設置により再生可能エネルギー*を活用しています。また、省エネ性能が高い高効率機器の導入や外皮の断熱化はもちろん、森からの風を換気に利用したり、多くの自然光を教室に採り込んだりするなど、本市の地形・風土を活かした設計となっています。さらに、「エコモニター」による消費電力等の「見える化」のほか、素材の異なる断熱材の温度を体感する「触れる化」、中庭植栽のそよぎを感じる「聴こえる化」など、五感で感じる環境教育システム「環境学習プラットフォーム」が反映され、生徒自身の主体的な省エネ行動を促す仕組みが取り入れられています。このような取り組みを行うことで、令和元年(2019年)9月から令和2年(2020年)8月にかけてZEB*を達成しました。

本プロジェクトは、本市の風土を活かした先進的な環境保全の取り組みを共有し、市内の公共施設の新築・建て替え等の際には、瑞浪北中学校の技術を取り入れていくことを目指します。

— 取り組みの方向性 —

瑞浪北中学校においては、家庭を含めて環境を意識するようになったり、生徒自身がエコモニターの情報を基に主体的に考えて行動しています。このような意識変容・行動変容の効果について周知し、脱炭素建築物の普及を促進します。

また、市内の公共施設の建て替え等を行う際に、瑞浪北中学校の建築により得られたノウハウを活かすとともに、最先端技術として、学校に限らず市内の住宅や事業所等の建築物へ幅広く情報公開を行い、建築物の脱炭素化の水平展開を図ります。

